

# 海は、研修の宝庫

## 人の再生には、今、幼児期の教育が必要不可欠

「学校や家庭で、何を教わってきたんだ」と、つい叫びたくなる機会が増えているように思えます。社会人として、企業人として、そして人として心得ておくべき最低限のマナーやモラルは勿論、集団生活を送るために必要なコミュニケーション能力や連帯感など、現代人に望むべきものではありません。「挨拶をする」「約束を守る」「相手の話を聞く」こんな簡単な事でさえ出来ない。本来ならば、幼い頃に身につけておくべき事かもしれません。人はオトナへと成長するにつれて、知識や常識、技術など学んでいく反面、いちばん肝心な基礎力を見失っていきます。皮肉にも、社会が必要としている能力は、まさにこのベーシックな部分なのです。そこで私たちは、これまでの人材育成には限界があったと痛感、敢えて幼児期の教育に着目したのです。

## 無力な自分に気付き、素直になれる、海に着目

たとえば「みんなで手をつなぎましょう」「相手のことを理解しましょう」などという人の基礎力を理解していただくためのプログラムを社会人に行っても、真摯に取り組んでくれそうにもないことは想像に難くありません。そこで私たちが注目した環境、それが海なのです。海の中で、人はまったく無力です。仲間や装置など、さまざまな助けを借り、サポートを受けなくては生きていけません。自らが無力になることで、どんなことでも

無条件で、身体と精神で受け入れることができます。そして人の本能に目覚め、現代社会で失ってきた生命力や結束力、伝達力など数々の潜在力を甦らせることに気づくでしょう。それが、私たちのご提案する、新しい人材育成プログラムなのです。

## 頭をまっしろに、してみないか

誇り、虚栄、自尊心、一度、自分を覆っている衣を脱ぎ去ってみませんか。赤ちゃんが生まれて初めて水中を体験するように身体ごと海に飛び込んでみるのです。陸と違って海の中は、とても不自由です。行動も言語も、思うに任せません。魚も人も、地球に生かされている等しい存在だと肌で体感できるはずなのです。

## 人の動きを、マネてみないか

度重なる官、民の不祥事。企業のルール違反が社会問題になっています。今やおとなに、子供のマナー違反を叱る資格などありません。コンプライアンス(法令遵守)は、企業が果たすべき大きな社会的責任のひとつです。さて、海の中のルール違反。これは即、死に直結します。指導者の教えを真摯に守り実行する事が、自分自身もより、行動を共にする仲間たちへの思いやりにもつながるのです。

## 手と手を握り、感じあってみないか

私が、僕が、俺が。個人主義を履き違えている人を、よく見かけます。海の中では、バディという相棒と二人一組で潜るの



(財)関西生産性本部 中堅企業経営塾 塾長  
日本リガメント(株) 会長兼社長

## 田中 正次

が鉄則。不測の事態が起きた時、バディにしっかり身体をつかんでもらわなければ、命の保証はないからです。海では、年齢も性別も役職も、人の属性に関係なく、皆フラットな関係のある仲間たち。共にサバイバルするためのパートナーなのです。熱い絆で結ばれた。

## 互いに、眼と眼を結んで見ないか

自分の意見を伝える、相手の意見を聴く。お互いの考えを双方向でやりとりする。コミュニケーション能力の劣化が危ぶまれています。海の中では、コミュニケーションが生死を左右します。たとえば、空気が足りない時。言葉が通じない海では、相手の眼を見つめ、表情や身振り手振りでコミュニケーションしなければ意思が伝わりません。普段、陸の上で、私たちはいかにコミュニケーションを甘く見ていたかを実感できるはずなのです。

## 自然な笑顔に、なってみないか

最近、自然に感動しましたか?心から笑ったことがあります

か?都会での仕事や暮らしの中で私たちはほとんど人間らしさを失っているようです。人は、自然の一部。地球に生かされている。そのような根源的なことを、海はやさしく、そして確かに教えてくれます。海の中で、いろいろな生き物たちと共に泳ぎ、遊び、感動を分かち合ってみませんか。そして、自然への畏敬の念のもとに、万物への感謝の思いがこみ上げてくるはずなのです。

2006年5月 「人材育成制度ビジネスプラン」  
日本リガメント株式会社(立案)

2006年7月 研修運営会社「クオリアダイブ株式会社」  
設立(沖縄県産業支援センター内)

(財)沖縄県産業振興公社主催 平成18年度ベンチャービジネスサポート事業にて採択